国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所

荒川と絵画　～昔の暮らしと荒川の関わりを知る貴重な資料～

江戸時代中期以降、紀行文や地誌が編纂されるころ、荒川が描かれました。

荒川上流部改修から100年 1918-2018

木曽街道蕨之駅戸田川渡

名所江戸百景　大はしあたけの夕立

秩父長瀞

荒川と絵画

昔から人々は自然豊かな荒川に魅せられ、その思いを表現しようと絵画の形で作品を残してきました。江戸時代中期には、渓斎英泉が木曽街道六拾九次で荒川を渡る人々の様子を、また歌川広重が江戸時代には荒川であった現在の隅田川にかかる橋に夕立が降る様子を描いています。

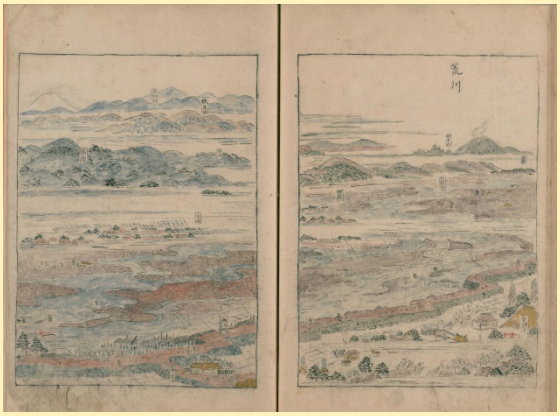
明治以降、横山大観による「荒川絵巻」、河合玉堂による「行く春」等、長大な巻き物等に描かれており、荒川絵巻は荒川治水資料館で、行く春は埼玉県立川の博物館の壁画で見ることができます。

昭和以降でも、高田誠による「武甲山」や川瀬巴水の「秩父長瀞」など荒川の自然を題材にした絵画が描かれ続けています。

▶ 名所図絵と荒川

1834（天保5）年は、有名な渓斉英泉と広重とによる錦絵「木曽街道六十九次」が中断されながらも出版された年で、この一部「蕨之駅　戸田川渡」は英泉により、まさに荒川そのものが中心となって描かれています。主題は渡し舟にありますが、川が重要な要素となっているのは考えるまでもなく、また当時国境、郡境の川は人々にとっても決して軽んじることのできない重要なものであったと思われます。

江戸時代後期には、名所図絵が盛んに出版されるようになりました。1835（天保6）年には忍藩の洞秀香斉によって「忍名所図絵」が土梓されています。これは1841（天保12）年に岩崎長容によって増補されました。今には残っていませんが、荒川に於ける鵜飼いの有り様など、珍しい絵が掲載されています。



忍名所図絵

▶ 横山大観と荒川

岡倉天心を師と仰ぎ、明治・大正・昭和の90年を生きた大観は「一切の藝術は無窮を趁ふの姿に他ならず一芸術は感情を主とす一世界最高の情趣を顕現するにあり」を座右の銘としました。

荒川を題材にした作品としては、「生々流転」や「荒川絵巻」を制作し、「生々流転」の制作の際、荒川の流れを参考にするために幾度となく熊谷の地を訪ねたといいます。

コラム　荒川図画コンクール

荒川上流河川事務所では、河川愛護に関する広報活動の一環として、次世代を担う小学生に荒川の絵を描くことにより河川美化、愛護の意識や河川への意識を啓発することを目的に「荒川図画コンクール」を行っています。このコンクールは1989（平成元）年より毎年行われており、平成30年度には埼玉県内31市町村156校より1,258点の作品が寄せられました。

入賞作品や展示会の予定等については荒川上流事務所HP等で発表されます。お近くの展示会場までぜひお越し下さい。

平成30年度荒川図画コンクール 特選作品

アクセス

荒川知水資料館アモア

交通：ＪＲ埼京線・京浜東北線・高崎線 「赤羽駅」下車、徒歩約20分

ＪＲ「赤羽駅」より都バス「豊島5丁目団地」行き「岩淵町」または「志茂2丁目」下車、徒歩10分

地下鉄南北線「赤羽岩淵駅」または「志茂駅」下車、徒歩約15分

住所：東京都北区志茂 5-41-1

荒川知水資料館アモア

出典　埼玉県立川の博物館／埼玉県「荒川　人文Ⅲ　荒川総合調査報告書4」／横山大観記念館HP／荒川下流事務所HP／国立国会図書館

荒川上流部改修100年の詳しい情報はこちら→